



利用が拡大する那覇空港

（沖縄の空の玄関口のいま）

沖縄を訪れる国内外からの観光客にとって最初に降り立つ玄関口である那覇空港。その利用は年々増加しています。今回は那覇空港の利用状況について、観光や物流の観点から紹介します。

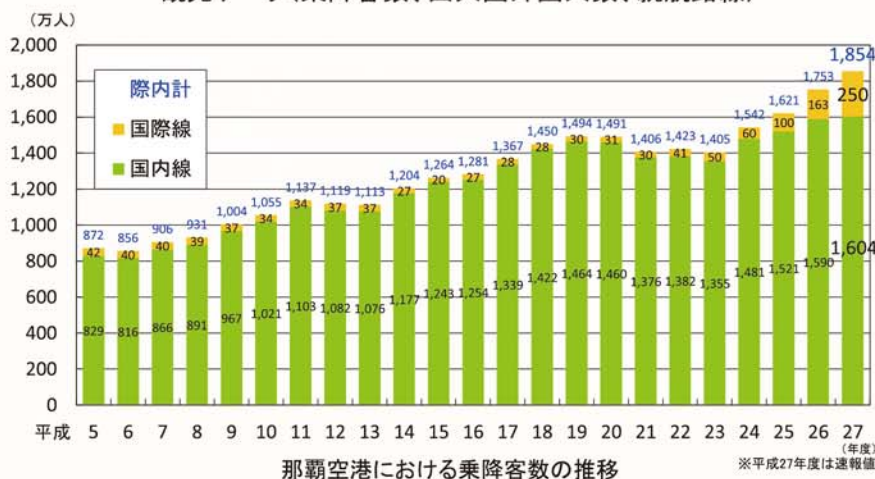
観光客で賑わう那覇空港

平成27年度に沖縄を訪れた観光客は793万6000人と過去最高を記録しました。中でも海外からの観光客は前年度比約70%増の167万3000人と大幅に増加しています。背景には、円安傾向による訪日旅行需要増や世界的なクルーズ需要の高まり、LCC（格安航空会社）の相次ぐ就航などがあると考えられます。

観光客の約9割が空路で沖縄を訪れ、その多くが那覇空港を利用しています。那覇空港の乗降客数も年々増加しており、平成27年度には過去最高の1854万人を記録しています。



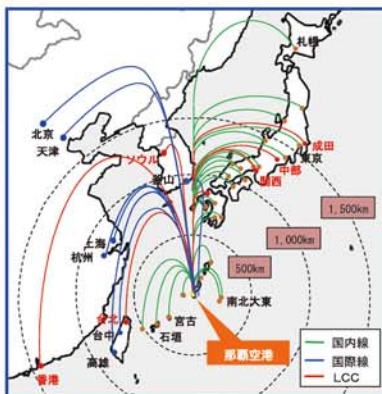
観光データ(乗降客数、出入国外国人数、就航路線)



那覇空港における出入国外国人数(平成26年度)

順位	国・地域	人数	割合
1	台湾	約49万人	約38%
2	中国	約41万人	約32%
3	韓国	約31万人	約24%
4	北アメリカ	約3万人	約2%
5	その他アジア	約3万人	約2%
6	ヨーロッパ	約2万人	約2%
7	その他	約1万人	約0%

出典: 出入国管理統計表(法務省)



那覇空港の就航路線(平成28年6月現在) ※沖縄総合事務局調べ

国際物流ハブ としての那覇空港

那覇空港は国際物流の観点から重要です。沖縄のアジアにおける地理的な優位性を活かし、那覇空港と国内・海外の各方面を深夜貨物便ネットワークで接続する沖縄国際貨物ハブの取組が平成21年から行われています。

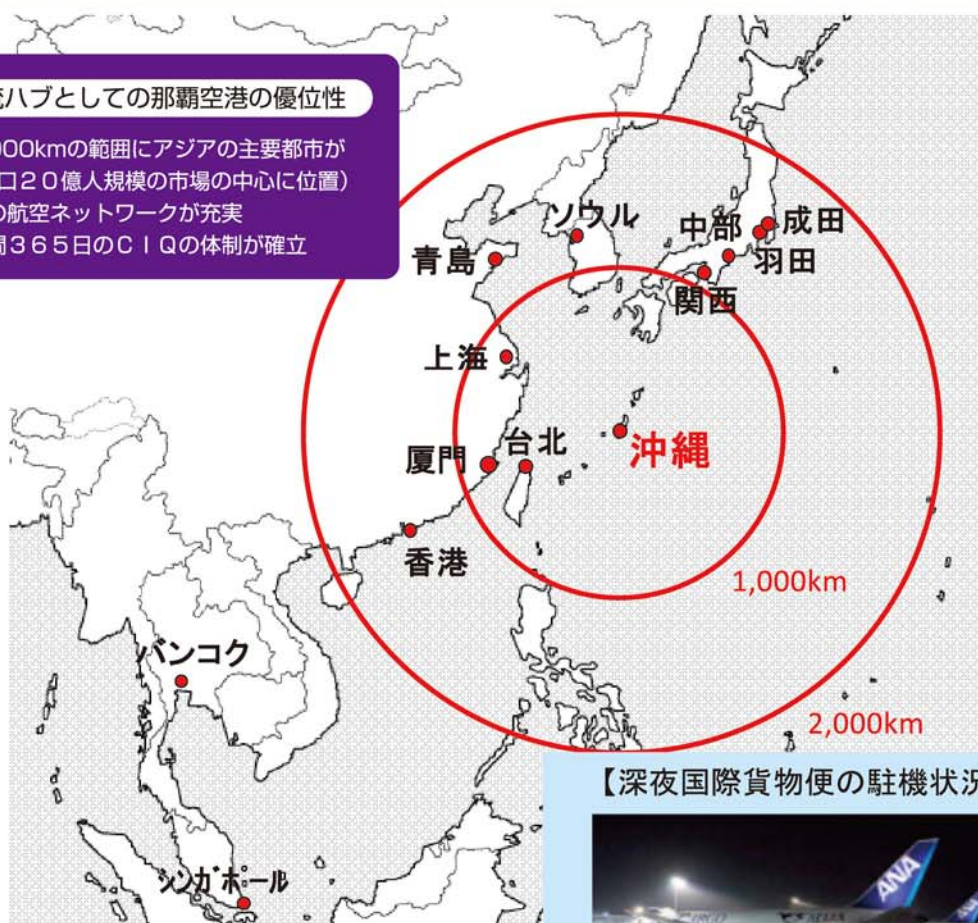
深夜時間帯を有効活用することで、早ければ注文の翌日には各地に配送が可能となることから、日本の農産物や生鮮食料品を高付加価値で海外に輸出することができるといふことで、国内外からの注目が高まりつつあります。

那覇空港のこれから

こうした航空需要の増加に対応するため、現在、那覇空港では2本目の滑走路の整備を進めています。平成32年（2020年）3月末の供用開始を目指しており、東京オリンピックが行われる頃には沖縄により多くの観光客を迎えることができるよう、引き続き着実に事業を推進してまいります。

国際物流ハブとしての那覇空港の優位性

- 半径2,000kmの範囲にアジアの主要都市が存在（人口20億人規模の市場の中心に位置）
- 国内外の航空ネットワークが充実
- 24時間365日のC I Qの体制が確立



【深夜国際貨物便の駐機状況】

